

平成二十九年年度

富山大学人文学部特別入試
推薦入試

小論文

注意事項

- 1 試験開始の合図があるまで、この試験問題を開かないこと。
- 2 試験問題は2枚、解答用紙は2枚、下書き用紙は2枚である。
試験開始の合図があつてから確認すること。
なお、試験問題に文字などの印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁および解答用紙の汚れなどがあつた場合は、手を挙げて監督者に知らせること。
- 3 試験開始後に、解答用紙の指定欄に受験番号を算用数字で記入すること。
氏名を書いてはいけない。
- 4 解答はすべて解答用紙に記入すること。指定された解答用紙以外に記入した解答は、評価（採点）の対象としない。
- 5 配布された試験問題および下書き用紙は、試験終了後、持ち帰ること。

実施年月日
28.11.30
富山大学

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

幼少期に、私たちは知らず知らずのうちにいろいろな価値観を取り込んでいます。一番大きな影響を与えるのは、言うまでもなく、親です。親も、子どもの頃に自分の実の親から「しつかりしなさい」「我慢することが大切」「弱音を吐くな」などと繰り返言われていたら、それらの価値観を鵜呑みにしているでしょう。そうした価値観が次の世代へと受け継がれていきます。

また、きょうだい関係によって生まれる価値観もあります。これは世代に関係なく起こります。大人になればすっかり忘れていたかもしれないかもしれませんが、幼少期のとき子どもたちは、きょうだい間で「親の愛情を得るための獲得戦争」を繰り広げます。彼らは「お兄ちゃんには負けられない」「なんで妹ばかり甘やかすの。私は愛されていないのかな？」と考えて、「勝たないといけない」「誰からも好かれたいといけない」といった価値観を持つことがあります。こうして幼少期に刷り込んでいった価値観が、思春期、そして成人以降に生き辛さやストレスを生み出したり、問題行動を起こす原点になったりします。

価値観をたくさん刷り込んでいる人ほど、人間関係がうまくつくれなくなります。なぜなら、自分に刷り込まれている価値観と「反対のことをする人」が許せなくなるからです。「行儀よくしなさい」と言われて育った人は、行儀よくできない人を許せなくなります。また、行儀よくできないときの自分も許せなくなります。「当たり前のことをしなさい」という価値観を持った人は、「できて当たり前のこと」ができない人を見るとイライラします。そして、当たり前のことができないときの自分を嫌に感じます。正しい（と思いつ込んでいる）価値観をたくさん持っている人ほど、生き辛さを感じたり問題行動を起こしたりするのです。どんな価値観を強く持つかによって、人の悩みや苦しみは変わってきます。例を挙げてみましょう。

幼い頃、親から「わがママを言うてはダメ」「誰からも好かれなさい」と絶えず言い聞かされた子どもがいるとしましょう。すると、子どもは「わがママはダメ」「誰からも好かれたい」といった価値観を持つかもしれません。

学校には、わがママを言う子どもは少なくありません。しかし「わがママはダメ」という価値観を持っていると、わがママを言うて困らせる子どもを見ると、許せない気持ちになります。わがママを言う姿を何度も見ているとイライラするようになり、ついには怒りの感情が出てきます。わがママを言う子どもに対して「あんた、いい加減にしなさいよ。皆、困っているのよ！」と激しい怒りをぶつけます。それがエスカレートすると、いじめに発展していきます。

さらに、このケースの子どもで考えると、「わがママはダメ」という価値観に加えて、「誰からも好かれたい」という価値観も持っているので、複雑な感情を抱くことになります。子どもは「わがママはダメ」を理由に「人をいじめている自分自身」に嫌悪感を持つので

す。「私は誰からも好かれたいのに、逆に人をいじめている。私は最低な人間だ……」と内心では自分を責めるかもしれません。こうして生き辛さが生まれます。

このようなケースは子どもだけに当てはまることではありません。価値観が変わっていないければ、小学生でも、大学生でも、大人になっても、同じことが起きます。

ここで指摘しておきたいことがあります。「わがママを言う人」は、「人との付き合い方がうまい」という見方ができることです。「わがママ」とは、言い方を変えれば、「自分の素直な気持ちを表現できている」ことです。それは、人とつながるためには良い方法です。「粹」を越えたわがママの出し方は、心に何か問題を抱えている可能性が考えられますが、わがママをまったく出せないと他者からは「魅力のない人間」に映ってしまいます。

大学生のなかにも、当然「わがママを言う大学生」がいます。しかし誰もが「わがママ」を出せるわけではありません。わがママが言えない女子学生にとつて、わがママを言っている人とうまく付き合っている女子学生を見ると嫉妬心が生まれます。それが、耐えがたい怒りに発展します。すると、いろいろな問題行動が起こります。わがママを言える女子学生が付き合っている男性を強引に奪うのはよく聞く話です。同級生に変な噂うわさを流して孤立させるような陰湿ないじめのケースもあります。

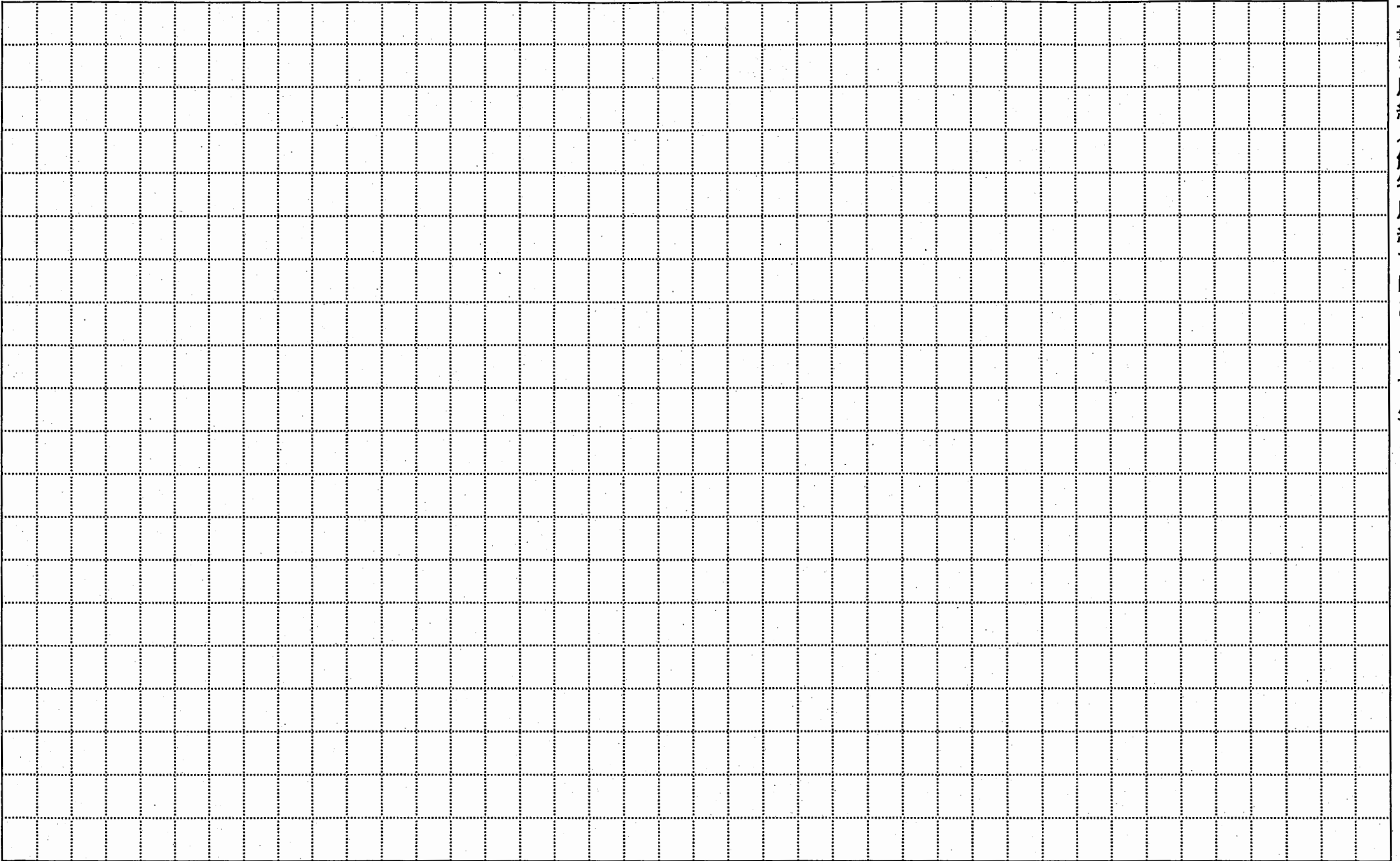
見逃せないことは、いじている本人は、子どものケースと同様、わがママを出せる女子学生に嫌な行為をしている自分自身をけつして許していないことです。表面上は、平静を装っているかもしれませんが、内心では「誰からも好かれたいのに、私は最低のことをしている」と自分自身に強烈な嫌悪感を持つのです。しかし悲しいことに、価値観というものが問題行動を起こし生き辛ささえもたらしていることに自分ではなかなか気づけません。価値観は幼少期に自然と刷り込まれているから、自覚できないのです。

(岡本茂樹『いい子に育てると犯罪者になります』新潮社、二〇一六年)

問一 著者は「わがママ」をどのようなものとしてとらえているか、二〇〇字程度でまとめなさい。

問二 この文章の内容について、あなたが考えたことを八〇〇字以内で述べなさい。

下書き用紙（解答用紙ではありません）



800

700

600

500

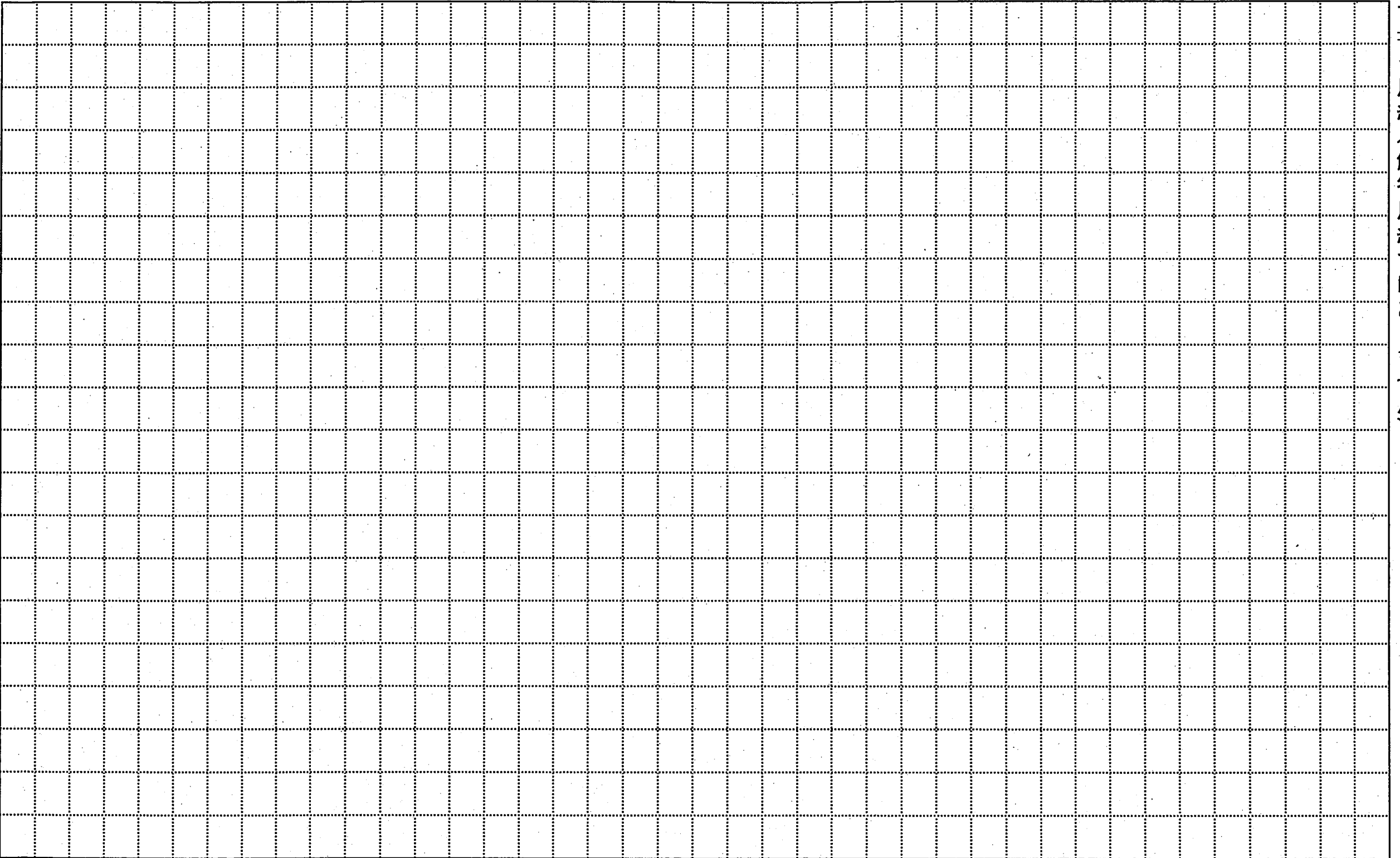
400

300

200

100

下書き用紙（解答用紙ではありません）



800 700 600 500 400 300 200 100